

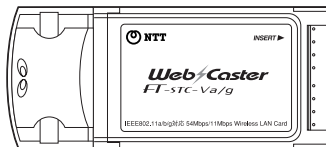


Web Caster
FT-STC-Va/g

詳細取扱説明書

このたびは、Web Caster FT-STC-Va/g
をお買い求めいただきまして、まことにあり
がとうございます。

- ご使用前に、この「詳細取扱説明書」を
よくお読みのうえ、内容を理解してからお
使いください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなど
いつも手元に置いてお使いください。



技術基準適合認証品

目次

マニュアルの見かた	3
1 ドライバをインストールしましょう	
ドライバ・ユーティリティをインストールしましょう	1-2
Windows® XPの場合	1-2
Windows® 2000の場合	1-6
Windows® Me/98SEの場合	1-9
2 無線LANを接続してみましょう	
アクセスポイントと通信しましょう（インフラストラクチャ・モード）	2-2
通信内容を暗号化しましょう	2-7
①WEPを使用する場合	2-8
②WPAを使用する場合	2-12
他の無線LANカードと通信しましょう（アドホック・モード）	2-15
ユーティリティソフトを使用しましょう	2-20
3 付録	
トラブルや疑問点がある場合	3-2
用語解説	3-4
索引	3-9

マニュアルの見かた

必要に応じて、以下の順番にお読みください。

1. ドライバをインストールしましょう

ドライバ及びユーティリティのインストール等について説明しています。
各OSにより作業内容が異なりますので、ご注意ください。



2. 無線LANを接続してみましょう

アクセスポイントや他の無線LAN製品との接続、通信内容の暗号化について説明しています。また、ユーティリティの使い方を説明しています。アクセスポイントの設定に関しては、アクセスポイントのマニュアル（Web Caster V110の場合は取扱説明書）を参照してください。

1 ドライバをインストールしましょう

ドライバ・ユーティリティを
インストールしましょう ……………1-2

ドライバ・ユーティリティを インストールしましょう

本商品を使用する場合には、はじめに本商品を装着するパソコンにドライバとユーティリティをインストールする必要があります。本章の手順を行うことにより、ドライバとユーティリティのインストールが行われます。以下、ドライバとユーティリティのインストールを「ドライバのインストール」と略します。

ご使用のパソコンのOSごとにインストール方法が異なりますので、OSの種類に合わせて以降のインストール方法をご覧ください。

- OSがWindows® XPのパソコンをご使用になる場合
→次ページ以降のWindows® XPの場合を参照して、インストールを行ってください。
- OSがWindows® 2000のパソコンをご使用になる場合
→次ページ以降のWindows® 2000の場合を参照して、インストールを行ってください。
- OSがWindows® Me/98SEのパソコンをご使用になる場合
→次ページ以降のWindows® Me/98SEの場合を参照して、インストールを行ってください。
- インストールするには以下の点にご注意ください。
 - ・インストールを行う前に、全てのアプリケーションを終了させてください。
 - ・本商品はスタンバイモードには対応していません。
本商品をインストールする前に、ご使用のパソコンの取扱説明書等をお読みになり、スタンバイモードを解除しておいてください。
 - ・インストールを行っている途中で、お客様のご使用になられているパソコンの状態によって、OSのCD-ROMを挿入するように指定される場合があります。その際は、パソコンの取扱説明書等をお読みになり、指定の作業を行ってください。

Windows® XPの場合

- 1 パソコンの電源を投入し、Windows® XPを起動します。その際、必ず Administrator権限のあるユーザでログインしてください。



お知らせ

- この時点では、本商品（カード本体）をPCカードスロットに挿入しないでください。パソコンの電源をONにする前、もしくはOSが起動した時点で本商品を挿入した場合、ドライバのインストールに失敗する恐れがあります。



お知らせ

- セキュリティソフト（ウイルスチェックプログラム等）が起動している状態でインストールを行うと正常にインストールが完了しない場合があります。インストール作業はセキュリティソフト（ウイルスチェックプログラム等）を一時的に終了してから行ってください。

2 CD-ROMドライブに付属のCD-ROMをセットすると、次のメニュー画面が自動的に起動します。

起動しましたら、[ドライバとユーティリティのインストール] をクリックします。

ダウンロード確認画面が表示されますが、[開く] をクリックしてください。



3 インストール確認画面が開きます。[次へ] をクリックします。



4 「使用許諾契約書」画面が開きます。内容を確認の上、よろしければ[同意する] をクリックします。



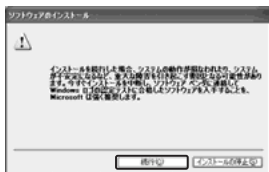
(次ページに続く)

ドライバ・ユーティリティを インストールしましょう

- 5 「インストール先の選択」画面が開きます。
ドライバのインストール先を変更される場合は【参照...】をクリックして、インストール先を指定します。変更の必要がなければ、【次へ】をクリックします。



- 6 以下のような確認メッセージが出ます。
【続行】をクリックしてインストールを続けます。



- 7 インストールが完了すると「セットアップの完了」画面が表示されます。
【完了】をクリックしてください。



- 8 本商品（カード本体）のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥まで挿入します。



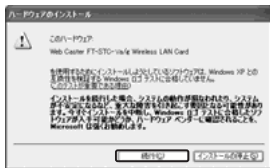
お知らせ

- PCカードスロットの位置・使用方法については、お使いのパソコンにより異なります。わからない場合にはパソコンの取扱説明書等をご覧ください。

9 下記のウィンドウが表示されます。

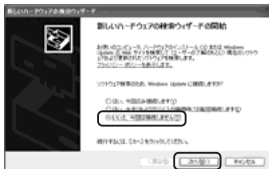


10 また、左下のような「新しいハードウェアの検索ウィザード」画面が表示されますので、そのまま左下のような「次へ」をクリックしてください。本商品（カード本体）が正しく認識されると、右下のような確認メッセージが表示されます。「続行」をクリックの後、インストールが完了します。



お知らせ

- ご使用のパソコンにWindows® XP ServicePack2をインストールしている場合、「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面は以下のイメージで表示されます。[いいえ、今回は接続しません]を選択した後、「次へ」をクリックしてください。手順10の右側の画面が表示されます。



以上でインストール作業は完了しました。

引き続き、ドライバのインストール状態を確認してください。手順については取扱説明書2章の「インストールの状態を確認しましょう」をご覧ください。

Windows® 2000の場合

- 1 パソコンの電源を投入し、Windows® 2000を起動します。その際、必ず Administrator権限のあるユーザでログインしてください。

お知らせ

- この時点では、本商品（カード本体）をPCカードスロットに挿入しないでください。パソコンの電源をONにする前、もしくはOSが起動した時点で本商品を挿入した場合、ドライバのインストールに失敗する恐れがあります。

- 2 CD-ROMドライブに付属のCD-ROMをセットすると、次のメニュー画面が自動的に起動します。

起動しましたら、[ドライバとユーティリティのインストール] をクリックします。

ダウンロード確認画面が表示されますが、[開く] をクリックしてください。



- 3 インストール確認画面が開きます。[次へ] をクリックします。



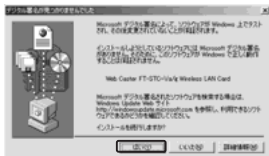
- 4 「使用許諾契約書」画面が開きます。
内容を確認の上、よろしければ【同意する】をクリックします。



- 5 「インストール先の選択」画面が開きます。
ドライバのインストール先を変更される場合は【参照...】をクリックして、インストール先を指定します。変更の必要がなければ、【次へ】をクリックします。



- 6 以下のような確認メッセージが出ます。
【はい】をクリックしてインストールを続けます。



(次ページに続く)

ドライバ・ユーティリティを インストールしましょう

- 7 インストールが完了すると「セットアップの完了」画面が表示されます。
[完了] をクリックしてください。

※ご使用のパソコンの状態によっては、再起動を要求される場合があります。



- 8 本商品（カード本体）のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥まで挿入します。



お知らせ

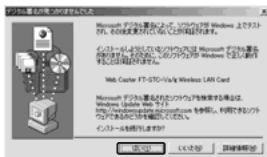
- PCカードスロットの位置・使用方法については、お使いのパソコンにより異なります。わからない場合にはパソコンの取扱説明書等をご覧ください。

- 9 下記のウィンドウが表示されます。



- 10 本商品（カード本体）が正しく認識されると、以下のような確認メッセージが出ます。

[はい] をクリックしてインストールを続けます。



以上でインストール作業は完了しました。引き続き、ドライバのインストール状態を確認してください。手順については取扱説明書2章の「インストールの状態を確認しましょう」をご覧ください。

Windows® Me/98SEの場合

1 パソコンの電源を投入し、Windows® Me/98SEを起動します。



お知らせ

- この時点では、本商品（カード本体）をPCカードスロットに挿入しないでください。パソコンの電源をONにする前、もしくはOSが起動した時点で本商品を挿入した場合、ドライバのインストールに失敗する恐れがあります。

2 CD-ROMドライブに付属のCD-ROMをセットすると、次のメニュー画面が自動的に起動します。

起動したら、[ドライバとユーティリティのインストール] をクリックします。

ダウンロード確認画面が表示されますが、[開く] をクリックしてください。



3 インストール確認画面が開きます。[次へ] をクリックします。



(次ページに続く)

ドライバ・ユーティリティを インストールしましょう

- 4 「使用許諾契約書」画面が開きます。
内容を確認の上、よろしければ【同意する】をクリックします。



- 5 「インストール先の選択」画面が開きます。
ドライバのインストール先を変更される場合は【参照...】をクリックして、インストール先を指定します。変更の必要がなければ、【次へ】をクリックします。



- 6 インストールを完了するために、パソコンの再起動を要求してきますので、【完了】をクリックしてください。

※ご使用のパソコンの状態によっては、再起動を要求される場合があります。



- 7 パソコンが起動したら、本商品（カード本体）のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥まで挿入します。

 お知らせ

- PCカードスロットの位置・使用方法については、お使いのパソコンにより異なります。わからない場合にはパソコンの取扱説明書等をご覧ください。

- 8 本商品（カード本体）が正しく認識されると、下記のウィンドウが表示されます。



 お知らせ

- お客様のご使用になられているパソコンの状態によって、インストールの途中でOSのCD-ROMを挿入するように指定される場合があります。その際は、パソコンの取扱説明書等をお読みになり、指定の作業を行ってください。

以上でインストール作業は完了となります。引き続き、ドライバのインストール状態を確認してください。手順については取扱説明書2章の「インストールの状態を確認しましょう」をご覧ください。

2 無線LANを接続してみましよう

- アクセスポイントと通信しましょう
(インフラストラクチャ・モード) …2-2
- 通信内容を暗号化しましょう ……2-7
- 他の無線LANカードと通信しましょう
(アドホック・モード) ……2-15
- ユーティリティソフトを
使用しましょう ……2-20

アクセスポイントと通信しましょう (インフラストラクチャ・モード)

本商品と無線LANアクセスポイントと通信する場合の設定方法について記載します。
(アクセスポイントにはWeb Caster V110を例として記載します。)

インフラストラクチャ・モードとは、本商品を搭載したパソコンからアクセスポイントを介し、無線LAN上で通信を行う場合に設定するモードです。

1 アクセスポイントの電源が入っていることを確認します。

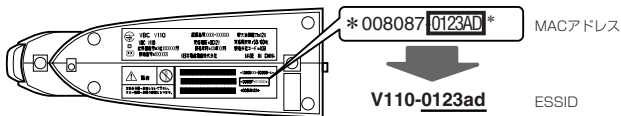
2 アクセスポイントのESSID（ネットワーク名）を確認します。

アクセスポイントの取扱説明書を確認して、ESSID（ネットワーク名）を記録しておいてください。

●MACアドレスの確認方法（アクセスポイントにWeb Caster V110を使用した場合）

※アクセスポイントのESSIDについては、工場出荷時に「V110-【MACアドレスの下6桁（英数小文字）】」で設定されています。

本体底面にシールが2箇所貼り付けてあり、バーコードがあるシールにMACアドレスが記載してあります。中央のバーコードの右に書いてあるものがMACアドレスになります。



【アクセスポイントの底面】

シールの表示が上記の場合は、アクセスポイントのESSIDは「V110-0123ad」となります。

※ESSIDの「V110-」のアルファベットは大文字、「0123ad」のアルファベットは小文字と
なりますのでご注意ください。

3 アクセスポイントの暗号キーを確認します。

アクセスポイントの取扱説明書、および実際に設定された装置の状況を確認し、暗号化設定が施されている場合には暗号キー（WEPキーまたは事前共有キー）を記録しておいてください。

お知らせ

- ESSIDとは、本商品と無線LANアクセスポイントとが通信時に使用するネットワーク識別用のIDです。無線LANアクセスポイントにESSIDを設定しておき、その無線LANアクセスポイントと接続するパソコン等にも同じESSIDを設定しておけば、通信が可能になります。このように、接続する無線LANアクセスポイントをESSIDで指定することができます。ESSIDは、セキュリティ機能の一つに分類される場合もありますが、あくまでも接続先の識別機能ですので、ESSIDを設定後に、他のセキュリティ設定をすることを勧めます。

この時点で、ドライバのインストールが完了し、本商品（カード本体）がPCカードスロットに挿入されているものとします。

本商品（カード本体）のPOWERランプが点滅していることを確認してください。

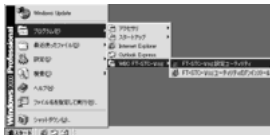
4 タスクトレイのユーティリティアイコン をダブルクリックします。

アイコンが表示されていない場合は以下の操作で表示することができます。

- ・Windows® XPをご使用の場合は、[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[WBC FT-STC-Vag]→[FT-STC-Vag設定ユーティリティ]をクリックしてください。



- ・Windows® 2000/Me/98SEをご使用の場合は、[スタート]ボタン→[プログラム]→[WBC FT-STC-Vag]→[FT-STC-Vag設定ユーティリティ]をクリックしてください。



5 ユーティリティの画面が開きます。



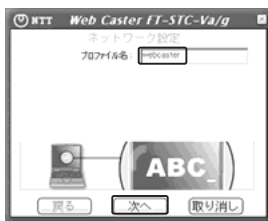
(次ページに続く)

アクセスポイントと通信しましょう
(インフラストラクチャ・モード)

- 6 上部の「設定」タブをクリックします。工場出荷時は何も入っていないので、「追加」をクリックしてネットワーク設定を行います。



- 7 ネットワーク設定を行います。プロフィール名は任意の英数字を入力してください。入力が完了したら「次へ」をクリックしてください。



- 8 事前に調べておいたアクセスポイントのネットワーク名 (ESSID) をSSIDの欄に入力します。入力が完了したら「次へ」をクリックしてください。



9

[次へ] をクリックしてください。

アクセスポイントが暗号化されている場合は、後述の「通信内容を暗号化しましょう」に従って認証モードを変更してください。



10

[完了] をクリックしてください。



お知らせ

- 本ユーティリティを使用してIPアドレスを設定する場合はIPアドレス設定メニューから[設定する]を選択した後、[次へ]ボタンをクリックしてIPアドレス入力画面で設定を変更してください。

(次ページに続く)

アクセスポイントと通信しましょう (インフラストラクチャ・モード)

- 11 設定した内容が反映されることを確認してください。リストから追加したネットワーク設定を選択した状態で、[接続]をクリックしてください。

通信をしているネットワーク名の前には  印が付きます。



- 12 手順11で表示されている画面上部の「設定選択」タブをクリックし、「詳細…」をクリックします。詳細情報が表示されますので「無線LAN情報」の信号強度と通信品質が表示されていることを確認した後、ウィンドウを閉じます。



以上で、アクセスポイントとの無線LAN接続関連の設定は終了です。

通信内容の暗号化設定を行う場合は、引き続き「通信内容を暗号化しましょう」をお読みください。

お知らせ

- タスクトレイに格納されているアイコンを確認することでも通信状態を確認することができます。

 : 無線LANネットワークに接続中

 : 無線LANネットワークを検索中

通信内容を暗号化しましょう

本商品は無線を利用しているために、ケーブルの配線工事が不要というメリットがあります。しかし通信内容の暗号化をしていない場合には、電波の届く範囲であれば通信内容を傍受される危険性が考えられます。

そのため、本商品をお使いになる際には必ずアクセスポイントと本商品の暗号化(WEP/WPA)の設定を行ってください。なお、本商品でサポートしているWPAの暗号化プロトコルはTKIPのみとなります。

アクセスポイントの設定に関しては、アクセスポイントのマニュアルを参照してください。

●WEP

無線LAN規格 (IEEE802.11) にて規格化されている「暗号化」方式の一つです。直訳は、「有線LANと同等のプライバシー機能」となり、無線LANに対するセキュリティの有効な手段とされています。

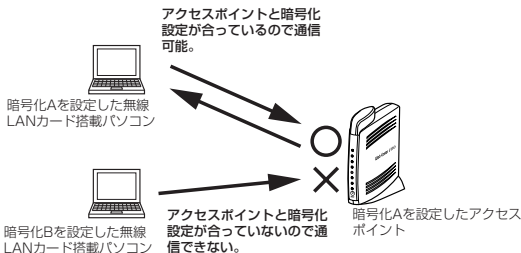
WEPを設定することで、無線電波が第三者に傍受されても、暗号を解読しないとデータの中身を判読することができなくなり、また無線LANに侵入することもできません。WEP機能は、パソコン等および無線LANアクセスポイント側の両方に「WEPキー (WEP暗号化鍵)」を設定する必要があります。市販の無線LAN製品は、64ビットおよび128ビット長のWEPキーをサポートしています。各ビット長のうち、ユーザが設定できるWEPキー長は、それぞれ「40 bit (5 byte)」、「104 bit (13 byte)」となります。残りの24ビットはIV (Initialization Vector) といわれる自動的にパソコンや無線LANアクセスポイントにより付加されるデータとなります。設定されるWEPキーの長さが長いほど、暗号は強力なものとなります。

●WPA

WPA(Wi-Fi Protected Access)とは、WEPの脆弱性を改善した暗号化方式です。

ユーザ認証機能の追加や、暗号キーを一定時間毎に自動的に更新するTKIP(Temporal Key Integrity Protocol)と呼ばれる暗号化プロトコルを採用することによりセキュリティ強度が向上されています。

WPAには認証サーバを使用せず、事前共有キー (Pre-shared Key) と呼ばれる共有キーを使用して認証を行う「WPA-PSK」という方式があります。



●お知らせ

- ご使用のパソコンのOSがWindows® XPの場合に暗号化方式でWPAを使用するにはWindows® XP ServicePack 1以上とWPAサポート修正プログラムをあらかじめインストールしておく必要があります。本書は上記ServicePackおよび修正プログラムをご使用のパソコンにインストールされていることを前提に記述しています。
- WPAサポート修正プログラムについてはマイクロソフト社のサポート技術情報 826942「Windows XP の WPA ワイヤレス セキュリティ アップデートの概要」を参照してください。マイクロソフト社のホームページ (<http://www.microsoft.com/japan/>) で、「サイトの検索」欄に 826942 と入力し、[検索]をクリックすることで参照できます。


通信内容を暗号化しましょう

①WEPを使用する場合

ここではアクセスポイントに暗号化方式WEP、入力方式PassPhrase、Bit数64bit、WEPキー「abcdefghij」を設定したときの設定例を示します。

この時点で、ドライバのインストールが完了し、本商品（カード本体）がPCカードスロットに挿入されているものとします。

本商品（カード本体）のPOWERランプが点滅していることを確認してください。

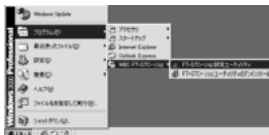
1 タスクトレイのユーティリティアイコン  をダブルクリックします。

アイコンが表示されていない場合は以下の操作で表示することができます。

- ・ Windows® XPをご使用の場合は、[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[WBC FT-STC-Vag]→[FT-STC-Vag設定ユーティリティ]をクリックしてください。



- ・ Windows® 2000/Me/98SEをご使用の場合は、[スタート]ボタン→[プログラム]→[WBC FT-STC-Vag]→[FT-STC-Vag設定ユーティリティ]をクリックしてください。



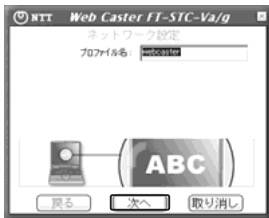
2 ユーティリティの画面が開きます。



- 3 上部の[設定]タブをクリックします。利用するネットワーク設定を選択し、[変更]をクリックします。



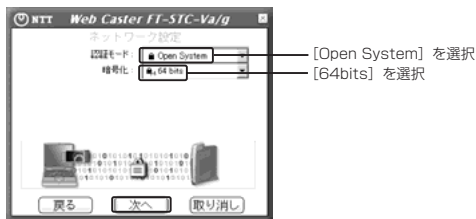
- 4 [プロファイル名] の設定の画面が表示されますので [次へ] をクリックして [認証モード] の設定画面まで進みます。



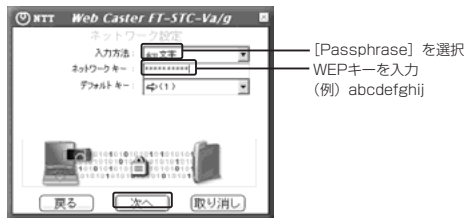
(次ページに続く)

通信内容を暗号化しましょう

- 5 [認証モード]、[暗号化]について次ページの内容に従って設定してください。
設定が完了したら[次へ]をクリックします。



- 6 「暗号化設定」内のパラメータが入力可能となりますので、次ページの内容に従って入力してください。
入力が完了したら [次へ] をクリックしてください。



7 IPアドレス設定の画面が表示されますので [完了] をクリックしてください。

以上で、暗号化の設定は終了です。

設定項目	説明												
認証モード	暗号化しない : [無効] WEPの認証方式でOpen Systemを使用する : [Open System] WEPの認証方式でShared Keyを使用する : [Shared Key] WPAの認証方式で事前共有キーを使用する : [WPA-PSK] ※暗号化方式でWEPを使用する場合は[Open System]または[Shared Key]を選択します。												
暗号化	WEPの暗号化キー長が64bitの場合 : [64bit] WEPの暗号化キー長が128bitの場合 : [128bit]												
入力方法	キーの形式を選択します。 ASCIIコードに従った文字を使用するとき : 「文字」 16進数(0~9,A,B,C,D,E,F)を使用するとき : 「16進(0-9, A-F)」 Passphraseを使用するとき : 「Passphrase」 ※Passphrase選択した場合はASCII文字入力となります。 ※ネットワークキーの入力は半角文字となります。												
キー (設定値)	「キー (形式)」にあわせた暗号キーを入力します。 入力文字制限は本画面の[入力方法]および認証モード設定画面の[暗号化]の選択状態に従って切り替わります。 <table border="1" data-bbox="339 914 785 1026"> <thead> <tr> <th>入力方法 暗号化</th> <th>文字</th> <th>16進 (0-9, A-F)</th> <th>Passphrase</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>64bit</td> <td>5文字</td> <td>10文字</td> <td>31文字以内</td> </tr> <tr> <td>128bit</td> <td>13文字</td> <td>26文字</td> <td>31文字以内</td> </tr> </tbody> </table>	入力方法 暗号化	文字	16進 (0-9, A-F)	Passphrase	64bit	5文字	10文字	31文字以内	128bit	13文字	26文字	31文字以内
入力方法 暗号化	文字	16進 (0-9, A-F)	Passphrase										
64bit	5文字	10文字	31文字以内										
128bit	13文字	26文字	31文字以内										
デフォルトキー	デフォルトキーインデックスを1~4の範囲で指定します。 アクセスポイント側の設定が"1"の場合:"1"に設定 アクセスポイント側の設定が"2"の場合:"2"に設定 アクセスポイント側の設定が"3"の場合:"3"に設定 アクセスポイント側の設定が"4"の場合:"4"に設定 ※通常は"1"を指定します。												


通信内容を暗号化しましょう

②WPAを使用する場合

ここではアクセスポイントに暗号化方式WPA-PSK、入力方式TKIP、ネットワークキー「pre-shared-key-012345678」を設定したときの設定例を示します。

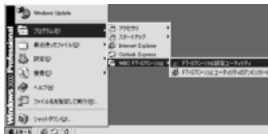
この時点で、ドライバのインストールが完了し、本商品（カード本体）がPCカードスロットに挿入されているものとします。

本商品（カード本体）のPOWERランプが点滅していることを確認してください。

- 1 タスクトレイのユーティリティアイコン  をダブルクリックします。
アイコンが表示されていない場合は以下の操作で表示することができます。
・ Windows® XPをご使用の場合は、[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[WBC FT-STC-Vag]→[FT-STC-Vag設定ユーティリティ]をクリックしてください。



- ・ Windows® 2000/Me/98SEをご使用の場合は、[スタート]ボタン→[プログラム]→[WBC FT-STC-Vag]→[FT-STC-Vag設定ユーティリティ]をクリックしてください。



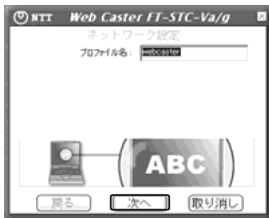
- 2 ユーティリティの画面が開きます。



- 3 上部の[設定]タブをクリックします。利用するネットワーク設定を選択し、[変更]をクリックします。



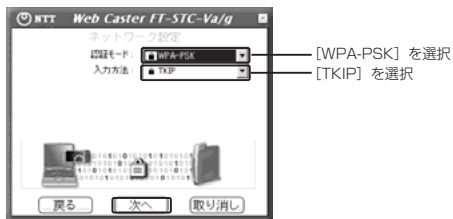
- 4 [プロファイル名] の設定画面が表示されますので [次へ] をクリックして [認証モード] の設定画面まで進みます。



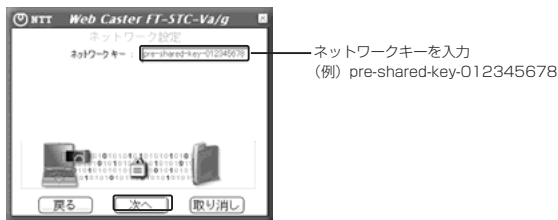
(次ページに続く)

通信内容を暗号化しましょう

- 5 [認証モード]のメニューから[WPA-PSK]を選択し、[入力方法]メニューから[TKIP]を選択し、[次へ]をクリックします。



- 6 アクセスポイントで設定したネットワークキー（事前共有キー）を入力してください。
入力が完了したら [次へ] をクリックしてください。



- 7 IPアドレス設定の画面が表示されますので [完了] をクリックしてください。
以上で、暗号化の設定は終了です。

他の無線LANカードと通信しましょう (アドホック・モード)

アクセスポイントを介さずに本商品とほかの無線LANカード等の間で直接通信する場合(アドホック・モード)の設定方法について説明します。

ここに記載するアドホック・モードとは、802.11に準拠したものを指します。

- 1 他の無線LANアダプタを搭載した端末を電源を入れた状態で設置します。
- 2 任意のSSID(ネットワーク名)を決めます。既設のネットワークに接続する際には、管理者にお問い合わせいただき、SSID(ネットワーク名)を確認してください。
- 3 本商品、および他の無線LANアダプタに同じSSID(ネットワーク名)を設定してください。




お知らせ

- 無線LANを使用したネットワーク機器が複数存在した場合、それぞれのネットワークで別々のチャンネルを設定する必要があります(相互干渉を防止するため)。通信チャンネルの設定値が重なった場合、相互に通信内容が漏れる可能性もあるため、十分に注意してください。
- アクセスポイントが存在する場合は、アクセスポイントに設定したESSIDとは別のSSIDを設定する必要があります。

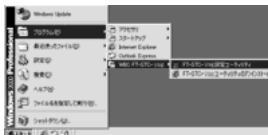
この時点で、ドライバのインストールが完了し、本商品（カード本体）がPCカードスロットに挿入されているものとします。

ネットワークに参加させたい全てのパソコンの電源を入れ、本商品（カード本体）のPOWERランプが点滅していることを確認してください。

- 4 タスクトレイのユーティリティアイコン  をダブルクリックします。アイコンが表示されていない場合は以下の操作で表示することができます。
- ・ Windows[®] XPをご使用の場合は、[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[WBC FT-STC-Vag]→[FT-STC-Vag設定ユーティリティ]をクリックしてください。



- ・ Windows[®] 2000/Me/98SEをご使用の場合は、[スタート]ボタン→[プログラム]→[WBC FT-STC-Vag]→[FT-STC-Vag設定ユーティリティ]をクリックしてください。



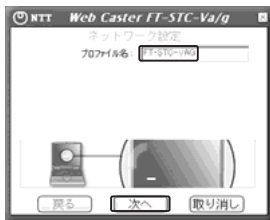
- 5 ユーティリティの画面が開きます。



- 6 上部 [設定] タブをクリックします。ここで [追加] をクリックしてネットワーク設定を行います。



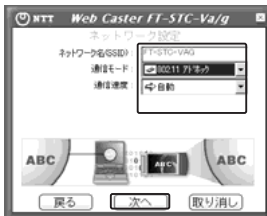
- 7 ネットワーク設定を行います。「プロフィール名」は任意の英数字を入力してください。入力が完了したら [次へ] をクリックしてください。



(次ページに続く)

- 8 表示された画面の [ネットワーク名 (SSID)] を入力します。その後、[通信モード] メニューで [802.11アドホック] を選択し、[通信速度] も設定してください。

入力が完了したら [次へ] をクリックします。



- 9 認証モードの設定画面が表示されますので[次へ]をクリックしてください。

※暗号化を行う場合は、前述の「通信内容を暗号化しましょう」の項を参照してください。




10 [完了]をクリックしてください。



お知らせ

- 本ユーティリティを使用し、IPアドレスを設定する場合はIPアドレス設定メニューから[設定する]を選択した後、[次へ]ボタンをクリックしてIPアドレス入力画面で設定を変更してください。

11 設定した内容が反映されることを確認してください。2台以上のパソコンに設定が終了した時点で、リストから追加したネットワーク設定を選択した状態で、[接続]をクリックしてください。

通信をしている[ネットワーク名]の前には  が表示されます。



ネットワークに参加させる全てのパソコンに同様の設定を行ってください。

お知らせ

- タスクトレイに格納されているアイコンを確認することでも通信状態を確認することができます。



: 無線LANネットワークに接続中



: 無線LANネットワークを検索中

- 無線LAN規格やチャンネルの選択はできません。IEEE802.11b、1チャンネルを優先して使用します。

ユーティリティソフトを 使用しましょう

ここでは、ユーティリティソフトについて、くわしい内容をご紹介します。

1. 設定選択

1.1 設定選択画面

本商品とアクセスポイント等とのリンク状態を表示します。



項目名	意味
現在の設定	現在、本製品に設定したネットワークのプロファイル名が表示されます。
機能ボタン	
詳細ボタン	[現在の設定]からプロファイル名を選択して[詳細]ボタンをクリックすると対応するネットワークの状態を表示します。

インフラストラクチャ・モード	
	通常はこの状態になります。 この状態ではアクセスポイントを経由した無線LANとインターネット接続の両方がご利用になります。
	ご使用のパソコンとアクセスポイントの間は接続が完了していますが、アクセスポイントとインターネット（DNSサーバ）の接続ができていません。 この状態では無線LAN接続のみご利用できます。
	ご使用のパソコンとアクセスポイントの間で接続が行われていません。 この状態では無線LANとインターネット接続が共にご利用できません。
アドホック・モード	
	通常はこの状態になります。 この状態ではアクセスポイントを経由しない無線LAN通信がご利用になります。
	他の無線LAN機器との接続が確立できていません。 この状態では無線LAN通信がご利用になれません。

1.2 詳細画面

リンクの状態とネットワーク設定について詳細な情報を表示します。



ユーティリティソフトを 使用しましょう

[無線LAN情報] ネットワークの状態を表示します。	
ネットワーク名(SSID)	無線LAN通信で使用するネットワーク識別用IDを表示します。ネットワーク毎にSSIDを設定することにより参加できる子機を制限することができます。接続が確立できていない場合は[無効]と表示します。
通信モード	通信モードを表示します。 ・インフラストラクチャ・モード： 本商品を搭載した機器からアクセスポイントを介し、無線LAN上で通信を行います。 ・アドホックモード： アクセスポイントを介さずに、本商品を搭載した機器とほかの機器が直接通信を行います。接続が確立できていない場合は[無効]と表示します。
チャンネル	使用している通信チャンネルを表示します。
暗号化	暗号化設定を表示します。 無効 : 暗号化設定なし 64bit : WEPの暗号化キー長64bit使用 128bit : WEPの暗号化キー長128bit使用 TKIP : TKIP使用
現在の速度	現在の通信速度(1~54Mbps/sec)を表示します。接続が確立できていない場合は[無効]と表示します。
信号強度	接続中の無線LANの信号強度を表示します。
通信品質	接続中の無線LANの通信品質を表示します。
[TCP/IP情報] ネットワークアドレス情報を表示します。	
DHCP	本商品のDHCPの使用有無を表示します。 設定する : DHCP設定 設定しない : 固定IP設定
現在のIPアドレス	本商品のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	本商品のサブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのアドレスを表示します。
DNSサーバ	DNSサーバアドレスを表示します。
機能ボタン	
戻るボタン	本画面を閉じて設定選択画面に戻ります。

2. 無線LANモニター

2.1 無線LANモニター画面

本商品と接続可能なアクセスポイント等の情報をリスト表示します。



ネットワーク名	アクセスポイント等のSSIDを表示します。
バンド	アクセスポイント等が使用している無線LAN規格を表示します。 A：IEEE802.11aを使用しています。 B：IEEE802.11bを使用しています。 G：IEEE802.11gを使用しています。
信号	アクセスポイント等の信号強度を表示します。 (単位：%)
【無線LAN情報】 リストから選択したアクセスポイント等の情報を表示します。	
通信モード	通信モード（インフラストラクチャモード／アドホックモード）を表示します。
チャンネル	使用している通信チャンネルを表示します。
暗号化	使用している暗号化設定を表示します。 有効：通信データの暗号化を行っています。 無効：通信データの暗号化を行っていません。
MACアドレス	アクセスポイントのMACアドレスを表示します。
機能ボタン	
接続ボタン	リストから選択したアクセスポイント等に接続します。 ※暗号化設定されている場合はボタンは無効になります。
更新ボタン	リストに表示されているアクセスポイント等の情報を更新します。

ユーティリティソフトを 使用しましょう

3. 設定

3.1 設定画面

本商品に設定したネットワークのプロファイル情報をリスト管理します。また接続ボタンでアクセスポイント等に接続します。



プロファイル名	プロファイル名を表示します。
ネットワーク名	ネットワークのSSIDを表示します。
【無線LAN情報】 リストから選択したアクセスポイント等の情報を表示します。	
通信モード	通信モード（インフラストラクチャモード／アドホックモード）を表示します。
チャンネル	使用している通信チャンネルを表示します。
暗号化	暗号化設定を表示します。 有効：通信データの暗号化を行っています。 無効：通信データの暗号化を行っていません。
IPアドレス設定	IPアドレス設定を表示します。 無効：DHCP設定 有効：固定IP設定
機能ボタン	
追加ボタン	プロファイルを新規作成します。
変更ボタン	リストで選択したプロファイルを変更します。
削除ボタン	リストで選択したプロファイルを削除します。
接続ボタン	リストから選択したアクセスポイント等に接続します。

3.2.1 プロファイル名設定画面 プロファイル名を設定します。



プロファイル名	プロファイル名を設定します。
機能ボタン	
戻るボタン	本ボタンはご使用できません。
次へボタン	次の画面を進み、入力を続行します。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

ユーティリティソフトを 使用しましょう

3.2.2 ネットワーク設定画面

ネットワーク名、通信モード、通信速度、チャンネルを設定します。



ネットワーク名 (SSID)	アクセスポイント等のSSIDを設定します。 アクセスポイント等にそれぞれSSIDを設定することにより参加できる子機を制限することができます。
通信モード	通信モード（インフラストラクチャ／802.11アドホック）を設定します。
通信速度	通信速度を指定します。 ※本ユーティリティで選択できるのは自動のみとなります。
機能ボタン	
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。
次へボタン	次の画面を進み、入力を続行します。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

3.2.3 認証モード設定画面

セキュリティ関連の情報を設定します。

画面の表示イメージは、ネットワーク設定画面の通信モードの選択状態（インフラストラクチャ/802.11アドホック）により異なります。

●通信モードでインフラストラクチャ・モードを選択した場合

<認証モードで「無効」を選択した場合>



<認証モードでOpen SystemまたはShared Key
を選択した場合>



<認証モードでWPA-PSKを選択した場合>

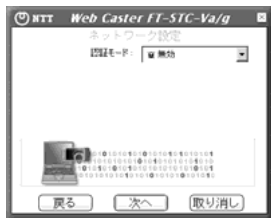


ユーティリティソフトを 使用しましょう

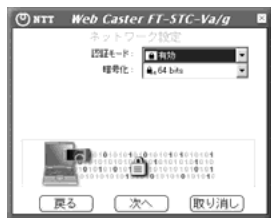
認証モード	<p>認証方式を設定します。</p> <p>【無効】：暗号化をしない場合に選択します。</p> <p>【Open System】：WEPの暗号化方式でOpen Systemを使用する場合に選択します。</p> <p>【Shared Key】：WEPの暗号化方式でShared Keyを使用する場合に選択します。</p> <p>【WPA-PSK】：WPAの暗号化方式を使用しPre-Shared Keyを使用する場合に選択します。</p>
暗号化	<p>【認証モード】でOpen SystemまたはShared Keyが選択された場合にネットワークキーの長さ(64bits/128bits)を設定します。</p>
入力方法	<p>【認証モード】でWPA-PSKが選択された場合に設定できます。TKIPを指定してください。</p> <p>※本ユーティリティで選択できるのはTKIPのみとなります。</p>
機能ボタン	
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。
次へボタン	次の画面を進み、入力を続行します。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

●通信モードでアドホック・モードを選択した場合

<認証モードで「無効」を選択した場合>



<認証モードで「有効」を選択した場合>



認証モード	認証方式を設定します。 [無効]：暗号化をしない場合に選択します。 [有効]：WEPの暗号化方式でOpen Systemを使用する場合に選択します。
暗号化	ネットワークキーの長さ(64bits/128bits)を設定します。
機能ボタン	
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。
次へボタン	次の画面を進み、入力を行います。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

ユーティリティソフトを 使用しましょう

3.2.4 ネットワークキー（WEP）設定画面

【認証モード】でOpen SystemまたはShared Keyを選択した場合は表示されます。
ネットワークキーの入力方法、ネットワークキー、デフォルトキーインデックスを設定します。



入力方法	<p>ネットワークキーの入力方法を設定します。</p> <p>[文字] : ネットワークキーをASCII文字で入力する場合に設定します。</p> <p>[16進 (0-9,A-F)] : ネットワークキーを16進数で入力する場合に設定します。</p> <p>[Passphrase] : ネットワークキーをPassphraseとして入力する場合に設定します。ASCII文字で入力してください。</p> <p>※ネットワークキーの入力は半角文字となります。</p>												
ネットワークキー	<p>【入力方法】で指定した形式でネットワークキーを入力します。</p> <p>入力文字制限は本画面の【入力方法】および認証モード設定画面の【暗号化】の選択状態に従って切り替わります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>入力方法 暗号化</th> <th>文字</th> <th>16進 (0-9, A-F)</th> <th>Passphrase</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>64bit</td> <td>5文字</td> <td>10文字</td> <td>31文字以内</td> </tr> <tr> <td>128bit</td> <td>13文字</td> <td>26文字</td> <td>31文字以内</td> </tr> </tbody> </table>	入力方法 暗号化	文字	16進 (0-9, A-F)	Passphrase	64bit	5文字	10文字	31文字以内	128bit	13文字	26文字	31文字以内
入力方法 暗号化	文字	16進 (0-9, A-F)	Passphrase										
64bit	5文字	10文字	31文字以内										
128bit	13文字	26文字	31文字以内										
デフォルトキー	<p>アクセスポイントで設定しているデフォルト送信キーのインデックス (1~4) を設定します。</p>												
機能ボタン													
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。												
次へボタン	次の画面を進み、入力を続行します。												
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。												

3.2.5 ネットワークキー（WPA）設定画面

【認証モード】でWPA-PSKを選択した場合は表示されます。ネットワークキー（事前共有キー）を設定します。



ネットワークキー	ネットワークキー（事前共有キー）を設定します。
機能ボタン	
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。
次へボタン	次の画面を進み、入力を続行します。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

ユーティリティソフトを
使用しましょう

3.2.6 IPアドレス設定画面

IPアドレス設定を変更するか否かを指定します。



IPアドレス設定	IPアドレス設定を変更する場合に[設定する]を選択します。 [設定しない] : IPアドレス設定を変更しないときに選択します。 本画面で設定は完了となります。 [設定する] : IPアドレス設定を変更するときに選択します。 [次へ]をクリックしてIPアドレス入力画面でネットワークアドレス設定を行ってください。 ※本ユーティリティでIPアドレスを設定する場合は [IPアドレス設定]メニューから[設定する]を選択して設定を変更してください。
機能ボタン	
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。
完了ボタン	プロファイル設定が完了となります。設定画面に戻ります。
次へボタン	次の画面を進み、入力を続行します。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

3.2.7 IPアドレス入力画面

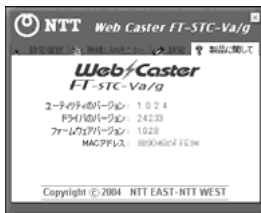
DHCPの使用有無とアドレス情報の設定を行います。



DHCP状態	アクセスポイント等と通信に使用するIPアドレスの設定方法を設定します。 [設定する] : DHCPを使用してIPアドレスを設定します。 [設定しない] : 自動的にIPアドレスを設定します。
IPアドレス	IPアドレスを設定します。
サブネット マスク	サブネットマスクを設定します。
デフォルト ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのアドレスを設定します。
DNSサーバ	DNSサーバアドレスを設定します。
機能ボタン	
戻るボタン	前の画面に戻り、設定した情報を確認します。
完了ボタン	プロファイル設定が完了となります。設定画面に戻ります。
取り消しボタン	入力した情報をキャンセルして設定画面に戻ります。

4. 製品情報画面

本商品の製品情報を表示します。



ユーティリティのバージョン	ユーティリティのバージョンを表示します。
ドライバのバージョン	ドライバのバージョンを表示します。
ファームウェアのバージョン	ファームウェアのバージョンを表示します。
MACアドレス	本商品のMACアドレスを表示します。

3 付録

トラブルや疑問点がある場合	3-2
用語解説	3-4
索引	3-9

トラブルや疑問点がある場合

トラブルが起きたときや疑問点があるときは、こちらをお読みください。
 該当項目がない場合や対処をしても問題が解決しない場合は、本商品をパソコンから取り出してソフトウェアのアンインストールを行い、再度インストールされることをお勧めします。手順については、取扱説明書の「本商品をパソコンから取り外す場合は」および「本商品（ソフトウェア）を削除する場合は」を参照してください。
 その際、再インストールを行うと、プロファイルのデータ等が消去されますのでご注意ください。

症 状	原因と対策
ドライバがインストールできない	<p>ご使用のパソコンで本商品ではサポートしていないOSを使用している可能性があります。</p> <p>●ご使用になるパソコンのOSが本商品でサポートしているものであることを確認してください。本商品でサポートしているOSに関しては、FT-STC-Va/g取扱説明書の「1 最初に確認しましょう 動作環境を確認してください」を参照してください。</p>
	<p>全てのソフトウェアを終了していない可能性があります。</p> <p>●本商品のドライバをインストールする時には、あらかじめ起動しているソフトウェアを全て終了する必要があります。セキュリティソフト（ウイルスチェックプログラム等）についても忘れずに終了してからインストールを実施してください。</p>
	<p>本商品以外の無線LANドライバがインストールされている場合は正常にインストールが完了しない可能性があります。</p> <p>●インストール済みの無線LANドライバをアンインストールした後、再度インストールを試みてください。</p>
	<p>パソコンの電源をONにする前、もしくはOSが起動した時点で本商品を挿入した場合は正常にインストールが完了しない可能性があります。</p> <p>●インストール済みの無線LANドライバをアンインストールした後、再度インストールを試みてください。</p>

症 状	原因と対策	原因と対策
インターネットができ ない	無線通信ができる	<p>アクセスポイントに問題がある可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アクセスポイントに設定されている設定情報を確認してください。WAN側の設定に誤りがあるか、設定を行っていないことが考えられます。設定情報の詳細に関してはアクセスポイントのマニュアルを参照してください。
	無線通信ができない (POWERランプと LINKランプが交互 に点滅している)	<p>アクセスポイントの電源が入っていない可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。 <p>アクセスポイントに本商品（カード本体）が正常に挿入されていない可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アクセスポイントのPCカードスロットの奥まで正しく本商品（カード本体）が挿入されていることを確認してください。 <p>設置場所に問題がある可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電波の届く範囲にアクセスポイントがあることを確認してください。 ●本商品の設置場所を変えてみてください。 <p>アクセスポイントの情報が本商品に設定されていないか、または設定が誤っている可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ユーティリティにて本商品に設定しているアクセスポイントの設定情報（ESSIDや暗号化設定など）を確認してください。設定情報に関しては本書「2 無線LANを接続してみましょう」を参照してください。 <p>他の通信機器と電波干渉が発生している可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●通信に使用しているチャンネルを変更してみてください。設定情報に関しては本書「2 無線LANを接続してみましょう」を参照してください。 <p>アクセスポイントが故障している可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アクセスポイントが正常に動作していることを確認してください。
	無線通信ができない (POWERランプと LINKランプが共に 消灯している)	<p>本商品（カード本体）に電源が入っていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PCカードスロットの奥まで正しく挿入してください。 ●PCカードスロットが複数ある場合には、他方に差し替えてみてください。PCカードスロットの動作が不安定な可能性もあります。

※上記の対応で問題が解決しない場合はドライバをアンインストールした後、再度インストールを実施してください。

本書に出てくる通信・ネットワークに関する用語を中心に解説します。

【アルファベット順】

ANY接続

パソコンに装着した無線LANカードの設定で、接続先アクセスポイントのESSIDを空欄に設定した場合に、クライアント端末から電波が届く範囲にいるアクセスポイントの中で最も電波状態が良好なアクセスポイントに接続する方法のことです。ANY接続を「許可」に設定しておく、アクセスポイントのESSIDがわからなくても接続が可能ですので、セキュリティ面から見ると好ましくなく、正常に無線通信の設定ができたあとはアクセスポイント側でANY接続を「拒否」にすることをお勧めします。ANY接続を「拒否」に設定している場合は、ANY接続で接続する事はできません。

また、アクセスポイント側にWEPキー等の暗号化設定がなされている場合、設定内容を一致させないと通信を行うことはできません。

ASCII (American Standard Code for Information Interchange)

ANSI (American National Standards Instituteアメリカ規格協会) によって定められた情報交換用の文字コードです。16進数2桁(7ビット)で34文字の制御コードと94文字の文字コードを構成し、英数字(a~z、A~Z、0~9)と基本的な記号(!、#、\$、&など)を表現します。

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)

自動的にネットワークの設定を行うプロトコル(通信手順)のことです。

DHCPサーバはネットワークのDHCPクライアントに対して、自動的にネットワークの設定を行います。

DNS (Domain Name System)

TCP/IPネットワークで使われ、コンピュータについて名前と実際のアドレスを関連付けるシステムです。

DNSサーバ

ネットワークのグループについて名前を問い合わせると、そのIPアドレスを教えてくれるサーバのことです。DNSサーバを使用することにより、WWWブラウザなどのアドレス入力欄でアドレスを文字で入力することができます。(IPアドレスの数値を直接入力する必要がなくなります。)

DSSS (Direct Sequence Spectrum Spread スペクトラム直接 拡散方式)

無線通信方式の一つで、小電力で広い帯域に分散した信号を同時送信します。

ノイズが少なく、他の通信を妨害しにくい、また傍受を受けにくいという特徴があります。本商品はIEEE802.11bに準拠しています。

**ESSID (ネットワーク名)
(Extended Service Set Identifier)**

ESSIDとは、本商品と無線LANアクセスポイントとが通信時に使用するネットワーク識別用のIDです。無線LANアクセスポイントにESSIDを設定しておき、その無線LANアクセスポイントと接続するパソコン等にも同じSSIDを設定しておけば、通信が可能になります。このように、接続する無線LANアクセスポイントをESSIDで指定することができます。ESSIDは、セキュリティ機能の一つに分類される場合もありますが、あくまでも接続先の識別機能ですので、ESSIDを設定後に、他のセキュリティ設定をすることをお勧めします。

IEEE 802.11a

IEEE802.11を拡張した無線LAN通信に関する国際標準規格です。最大速度54Mbpsによる通信が可能です。5.2GHz帯の電波を使用しますので、法令により屋外での使用は禁止されています。

IEEE802.11b

IEEE802.11を拡張した無線LAN通信に関する国際標準規格です。最大速度11Mbpsによる通信が可能です。2.4GHz帯の電波を使用します。

IEEE802.11

IEEE802.11は無線LAN通信に関する国際標準規格の一つです。この規格を拡張したものとしてIEEE802.11a/802.11b/802.11gがあります。

IEEE802.11g

IEEE 802.11bに、IEEE 802.11aの高速化技術を取り入れたものです。最大速度54Mbpsによる通信が可能です。2.4GHz帯の電波を使用します。

IPアドレス

TCP/IPプロトコルを使用して構築されるネットワークで、接続されているすべての機器を区別するためにつけられたアドレス(番地)のことです。

**LAN
(Local Area Network)**

ローカル・エリア・ネットワークの略称です。小規模なコンピュータネットワークのことです。

**MACアドレス
(Media Access Control Address)**

Ethernet機器ごとの固有の物理アドレスです。MACアドレスは先頭から3バイトのベンダーコードと、残り3バイトのユーザコードの6バイトで構成されています。ベンダーコードはIEEEが管理/割当を行っており、ユーザコードはEthernet機器のメーカーが独自番号(重複することのない)で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。

(次ページに続く)

MACアドレス フィルタリング	すべてのネットワーク機器は固有の番号としてMACアドレスという6バイト（12桁）の番号を持っています。無線LAN通信においてはサーバが通信できるMACアドレスを指定し、通信を受けたくない無線LANカードなどからの通信を防ぎます。
OFDM (Orthogonal Frequency Division Multiplexing 直 行周波数分割多重方式)	無線通信方式の一つで、多数の搬送波を用いることにより、狭い帯域内でも効率の良い通信を実現します。ノイズの多い帯域を避けて通信するという特徴があります。本装置はIEEE802.11a/gに準拠しています。
Passphrase	パスワードの文字数が長くなったものです。覚えやすいように複数の単語の羅列等で構成することができます。通常のパスワードより解読が困難なため、高いセキュリティを確保するために用いられます。
SSID (ネットワーク名)	Service Set IDの略で、無線のサービスエリア内に複数のネットワークが存在する場合に、グループごとにSSIDを設定して他の人からのアクセスを防ぐためのIDです。本書では特にアクセスポイントの場合、ESSID (ネットワーク名)と記載しています。
TKIP (Temporal Key Integrity Protocol)	従来の暗号化であるWEPの脆弱性を克服するために、キーを自動的に変更して暗号化を行うように改良された暗号化方式の1つです。定期的に変更する暗号キーを変更するために、キーの解析が困難となりWEPより強固なセキュリティとなります。
WEP (Wired Equivalent Privacy)	IEEE802.11bに含まれる標準の暗号化方式。各無線通信機器どうしが共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。40 bit の鍵では約1兆通りの暗号化が可能なため、暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加できません。
WEPキー	WEPで使用する暗号キー。40ビット長と104ビット長のデータを使用する方式があります。このキーを元に受信データを暗号化します。

WPA
(Wi-Fi Protected Access)

無線LANの業界団体であるWi-Fi Allianceが発表した無線LANの暗号化方式の規格です。従来の無線LANのもつ問題点としてあげられていた「ユーザ認証機構が存在しないこと」「暗号キー（WEPキー）が基本的に固定になっていること」などの弱点を補強すべく、これらのプロトコルの標準的な実装を定めています。具体的には、従来のSSIDとWEPキーに加えて、ユーザ認証機能を備え、暗号キーを一定時間毎に自動的に更新する機能についてTKIPと呼ばれる暗号化方式を採用するなどの改善が加えられています。WPAのユーザ認証機能で認証サーバを使用しない方式を「WPA-PSK」と呼びます。

WPA-PSK
(Wi-Fi Protected Access
Pre-Shared Key)

WPAにおける認証方式の1つであり、認証サーバを使用しない方式を指します。事前共有キー（Pre-Shared Key）と呼ぶ共有キーを使用して認証を行います。AESやTKIPなどの暗号化方式で使用します。共有キー自体を指す場合もあります。

【あいうえお順】**アクセスポイント**

インフラストラクチャモードでの通信の中継点となるポイントです。有線LAN接続のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで無線LAN接続のパソコンと通信します。

アドホック・モード
(Adhoc Mode)

アクセスポイントを介さずに、本商品等を実装したパソコン同士が直接無線LAN上で通信を行う形態を指します。

インフラストラクチャ・モード
(Infrastructure Mode)

アクセスポイントを介して、無線LAN上で通信をする形態を指します。

キーインデックス

WEP暗号方式では、仕様上4つのWEPキーを切り替えることができます。

WEP暗号方式では、無線LANアクセスポイントと無線LAN端末の両方のキーインデックスを同じに設定します。製品によってはキーインデックスの値が「0~3」のもの、「1~4」のものがあり、設定に注意が必要です。本商品のユーティリティソフトでは「キーインデックス」を「デフォルトキー」と表記しています。

ゲートウェイ

通信手順が異なるネットワーク同士を接続するための機器やシステムです。

(次ページに続く)

サブネットマスク	LANで使用可能なアドレスの範囲を決めるために、IPアドレスと組み合わせる値です。
16進数	0から16までの16個の数字を、10個の数字と5個のアルファベットを用いて表した、数値の表現方法です。 16進数の「12AB」は、10進数では $1 \times 4096 + 2 \times 256 + 10 \times 16 + 11 \times 1$ の4779に対応します。
チャンネル	無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。 複数の無線LANを狭いエリアで同時使用する場合は、それぞれに異なる周波数を割り当てないと、無線干渉が発生して、通信速度が遅くなる場合があります。 その場合、なるべく各チャンネル同士の帯域が重ならないような使用を推奨します。
ネットワークキー	共有キー認証の「認証キー」、および暗号化機能の「暗号化キーまたはPSK」の両方に用いられるキーのこと。
リンク	各機器間を接続することです。

アルファベット

- ESSID2-2、3-5、3-6
- IEEE802.11a3-5
- IEEE802.11b3-5
- IEEE802.11g3-5
- PSK3-7
- TKIP2-7、3-6
- WEP2-2、2-7、2-8、3-6
- Windows® 2000
.....1-6、2-7、2-8、2-16、2-20
- Windows® 98SE
.....1-9、2-7、2-8、2-16、2-20
- Windows® Me
.....1-9、2-7、2-8、2-16、2-20
- Windows® XP1-2、2-3、2-8、2-12
- WPA2-7、2-12、3-6

五十音**【ア行】**

- アクセスポイント2-2、3-7
- アドホック・モード2-15、3-7
- 暗号化2-7、2-8、2-12
- インストール
.....1-2、1-6、1-9、3-2
- インフラストラクチャ・モード
.....2-2、3-7

【サ行】

- 事前共有キー（共有キー）2-2、3-7
- 周波数3-8

【タ行】

- チャンネル2-15、3-8
- ドライバ1-2、1-6、1-9

【ヤ行】

- ユーティリティソフト2-20

注 意

本商品は、外国為替および外国貿易法が定める規制貨物に該当いたします。
本商品は、国内でのご利用を前提としたものでありますので、日本国外へ持ち出す場合は、同法に基づく輸出許可等必要な手続きをお取りください。

NOTICE

This product, which is intended for use in Japan, is a controlled product regulated under the Japanese Foreign Exchange and Foreign Trade Law. When you plan to export or take this product out of Japan, please obtain a permission, as required by the Law and related regulations, from the Japanese Government.

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報やバージョンアップサービスなどを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ： <http://www.ntt-east.co.jp/ced/>
<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>